

の強い腫瘍であった。

**考察：**① 両症例とも松果体固有細胞との類似性が強く、松果体固有の分化を良く保持しており pineocytoma に属する腫瘍と考えられた。② メラニン含有細胞は超微形態上、腫瘍細胞との類似点を有しており、相互の移行形も存在し、腫瘍細胞内にも melanosome が認められた。従って、松果体実質細胞の本来持つメラニン産生能が、一部の腫瘍細胞に強調されて現れたものと考えられた。③ 腫瘍細胞は免疫染色にて chromogranin-A 陽

性であった。

#### 〔附 議〕

中島 孝(群大第二病理) 光顕像を見ると melanophage が集簇していると思えたが、電顕像では確かにメラニン産生細胞の集簇が存在する。従ってメラニン顆粒の見られない腫瘍細胞に電顕的にプレメラノゾームが存在するか否かが、細胞分化を考える上で重要と思う。

#### 4. 松果体部腫瘍の治療、消失後11年を経た症例の脊髄に発生した neurogenic tumor の生検例

伊藤 拓緯\*, 高橋 均\*, 生田 房弘\*  
佐藤 浩\*\*

\*新潟大学脳研究所実験神経病理

\*\*山形県立中央病院整形外科

**症例：**57歳，男性。1977年，頭痛，嘔気が出現，CTで松果体部腫瘍と水頭症が発見された。北海道大学脳神経外科にて45Gyの放射線療法とV-P shuntが行われ，画像上腫瘍は消失した。生検は行われていない。9

年後の1986年左下肢痛出現。1988年，山形県立中央病院整形外科でT10レベルに腫瘍が発見され，腫瘍全摘後に50Gyの放射線照射を受け，経過は良好であった。さらに4年後の1992年に，歩行困難と両下肢しび

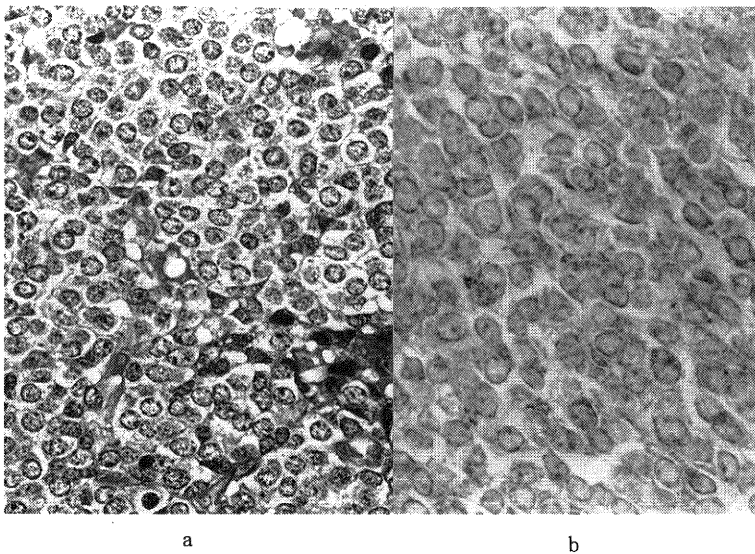


図1 a) 腫瘍は均一な小型類円形細胞より成る (HE×132)  
b) 腫瘍細胞胞体に synaptic vesicle-specific protein が陽性 (×200)

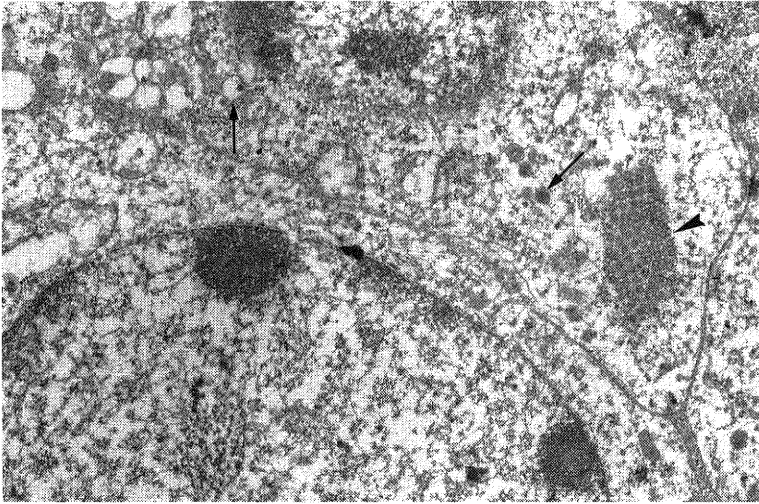


図 2 neurosecretory granule 様構造物 (矢印) と annulate lamellae の横断像 (矢じり)

れが出現. MRI で, T4 および T7 に腫瘍像が認められ, T4 レベルのくも膜外に存在した腫瘍の摘出術が行われた. 頭部 CT で, 松果体部に腫瘍を認めなかった.

**組織所見:** 2回の生検組織像はほぼ同一で, 腫瘍はやや明るい核と比較的乏しい胞体の小型類円形の細胞からなり, 明らかな mitosis はみられなかった (図 1-a). 血管結合織は腫瘍細胞を不完全ながら島状に区画するように入っていた. 一部に perivascular pseudorosette を認めたが典型的な rosette 構造は明らかでなかった. Bodian 染色で血管周囲に少数ながら嗜銀性の細胞突起を認めた.

**免疫組織化学的所見:** 腫瘍細胞の大部分に synaptic vesicle-specific protein が陽性で (図 1-b), 一部の細胞に neurofilament も陽性. ごく少数の細胞に GFAP が陽性であった.

**電顕所見:** 腫瘍細胞は cell-to-cell に配列し, 数個の細胞の中心にはしばしば大小の突起が介在していた. 細胞間には punctate adhesion を認めたが, synapse 構造はみられなかった. 胞体内には少数の neurosecretory granule 様構造物および比較的多数の annulate lamellae を認めた (図 2). また, 少数の cilia も認められた.

**考察:** 本例は比較的良好分化した neurogenic tumor であり, 臨床歴を併せ考えると, 松果体原発の pineocytoma ~ pineoblastoma の脊髄への転移の像として理解可能と思われた. 松果体部 pineocytoma ~ pineoblastoma が治療, 消失後長い期間 (休止期?) を経て脊髄に転移性発育を示しうることは, 臨床的, 病理学的に留意すべき点と考えられた.

**付記:** 我々が渉猟しえた範囲内で松果体原発の pineocytoma, pineoblastoma が脊髄に mass を形成する様な転移の報告はなかった.

本例を検索する上で, 北海道大学脳神経外科学教室, 群馬大学医学部中里洋一教授のご協力を得ました. 感謝申し上げます.

#### 〔附 議〕

中里洋一 (群馬第一病理) 光顕像 (特に Bodian 染色で process の形態) と電顕的に annulate lamellae が見られる点から pineocytoma の転移の可能性があると考えました. また, chromogranin A とグリメリウス染色が pineocytoma の診断に役立ちますので追加していただけるとよいと思います.